

ティーチングポートフォリオ

佐賀女子短期大学 地域みらい学科 前山 由香里

1. 教育の責任

この科目は「介護の基本Ⅰ」「介護の基本Ⅱ」で学んだ基礎的な知識を応用・発展させた科目である。科目名の通り、介護福祉士に必要な幅広い知識を網羅した内容となっており、この授業を通して高度な知識や技術を身につける必要がある。

本学福祉とソーシャルケアコースのディプロマポリシーにおいて「介護を必要とする人の心に寄り添い、その立場に立って考えることができ、適切に行動することができる」「介護福祉士に必要な幅広い専門知識と、個別性を理解した根拠のある生活支援技術を身につけている人」を掲げており、それに則ったカリキュラムポリシーとして「介護の基本を重視し、感性豊かな人間性と幅広い教養を身につけ、介護を必要とする人との信頼関係のスキルについて実践的に学ぶカリキュラム」「介護を必要とする人の生命や人権を尊重し、自立支援の視点から生活支援を理解するカリキュラム」を掲げている。

その評価基準では「④介護を必要とする人に共感的な態度で接することができ、その人の立場に立って考えることができる」「⑤利用者の状態や状況をみて、その場に応じた適切な行動がとれる」「⑦一人ひとりの人権と尊厳に配慮した介護ができる」「⑧介護実践の根拠となる知識、技術が理解できる」「⑪介護に関わる多職種とその専門機能を理解している」「⑬地域社会全体の福祉の向上に関心を持つことができる」「⑭福祉の現状と予測される将来について自発的な学びができる」と関連している。

2. 教育の実施における理念

この科目の教育の意義・目的として以下のことがあげられる。

- (1) ケアマネジメントについて理解を深め、多職種連携について知識を深める。
- (2) 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉専門職としての能力と態度を養う。
- (3) 介護における安全を確保するための知識・技術・事故

防止や安全対策、感染対策・緊急時対応・介護従事者の健康管理等について理解する。

3. 教育の方法

「介護の基本Ⅰ」「介護の基本Ⅱ」の復習を含め、さらに発展させた応用的な内容の授業を展開する。介護福祉士国家試験問題を適時取り入れ、知識を定着させる。

障害者・高齢者支援の実践経験がある実務家教員として、現場におけるさまざまな事例を提示しながら、学生たちの身近な例を題材にして理解を深める。

4. 教育の成果

この科目の評価は、授業で使用したプリント持ち込み可で筆記試験を行った。平均点は83点であった。

授業アンケートによる、学生による到達度評価については、到達目標を達成したかとの質問に対して「5」が30%、「4」が43%「3」が26%であった(回答率70%)。

学生の満足度における「総合評価」については、「5」が41%、「4」が32%、「3」が23%であった(回答率67%)。

授業見学に入っていたいただいた2名の先生方からの評価コメントは以下の通りであった。

- ・国家試験という明確な目標に向けた試験対策を設定されてた
- ・試験問題から広がって、介護に関わるキーワードや事象を取り上げて学生の理解を深めているようだった
- ・学生の理解を確認しながら進められていた
- ・留学生も混在する中で、全体で進めることの難しさもあるが、工夫して実施されていた

いただいた評価をこれからの授業に活かしていきたい。

5. 目標

介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、各種介護サービスや地域連携、インフォーマルサービスについて理解すること、また、介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解し、安全確保のための対応方法について理解し、応用性のある支援ができることを目標としている。